

# 学習意欲を育てる研究

～ 学級経営からのアプローチ ～

足利市立御厨小学校 小川 コイ

## 1 課題設定の理由

51年度は、“実践力・行動力を育てる手だて”として「学級の雰囲気づくり」という課題で、1年生の自由な生活の中で、毎日の学習の重要性、学級の仕事の大切さを気づかせていくことに取り組んだ。

本年度は、学校課題が昨年に引き続き「ひとりひとりにわからせる授業」ということで、4教科の指導を掘りさげていくことになった。幸い、2年生の持ち上がりとなったので、学級の雰囲気づくりのできてきた中で、ひとりひとりが、なぜ？ どうしてかな？という疑問を常にもち、その解決に取り組もうとする意欲の芽生えから、本当にわかったという喜びに幼い眼を輝かせる毎時間にもっていきたいと考えた。それには、まず、教師の姿勢を反省し、ひとりひとりにわからせる指導のくふうを洗い直してみる必要があると思った。

## 2 教師も児童のひとりひとりを理解する

児童のひとりひとりにわからせるためには、教師も、児童のひとりひとりを十分に理解することが大切であることはいうまでもない。

### (1) 教師の指導態度

- ア 教材研究を十分にする。
- イ 児童の実態を十分に把握した上で、準備をし資料を整える。
- ウ 個人指導の徹底をはかる。(評価)

### (2) 観察記録

- ア 1日1グループ(4人)を主として、綿密に観察し記録する。(学習面・行動面)
- イ その他、めだった児童の記録をとる。
- ウ 座席表チェックカードの利用。

### (3) 実態調査

- ア 交友関係の調査によるソシオグラムの利用
- イ 事前・事後の調査。
- ウ 家庭との連絡。

## 3 どの子のどんな発言、考え方もとりあげるための努力をする

低学年の児童は、遠慮なく、ことばや、からだ全体で歓声をあげつつ表現してくれる。その反面、興味のない時は、何のかけひきもなく、さっさと脱落していってしまう。

1時間の学習のめあてをはっきりつかませ、ひとりひとりが授業に参加しているのだという自覚

と喜びをもたせることは当然のことだが、少しずつでもわかってきたという楽しみをもたせていく授業の形態をくふうする。

- (1) 問題提示の発問を意図的に行うことによって、児童の活動を活発にさせていく。
- (2) どんなささいな発言・考え方も賞賛・激励していく。
- (3) 教師の話だけでなく、友だちの意見もよく聞いて考えるために、ハンドサインで、ひとりひとりの考えをはっきりさせる。
- (4) 作品なども、出来上がったものより、作りあげていく過程を大切に、認めていくようにする。
- (5) 4教科の重点指導
  - 国語・社会……作業用紙になれさせていく。
  - 理科……………ノートの記録になれさせる。(観察したことを自分のことばで記録させる)
  - 算数……………シート学習で自己評価させる。
  - 1時間に学習したことを明確にさせる。(3分間テスト)
  - 漢字は、1日1字覚える。
- (6) 日直の活動をするによって、全員の前で司会をしたり、責任をもつことで自信をもたせる。
  - 毎日2人交代で全員に活動させる。
  - 始業前……きょうのめあて
  - 帰りに……1日の反省

#### 4 1日必ず全員と話し合う機会をもつ

積極的な児童、活発な児童は行動もよくわかるし、何を考えているかも自然に教えてくれるが、おとなしく、めだたない子は、手がかからないだけに、何を考え、何に悩んでいるかわからずに終わってしまうことが多い。1日のうちで、どの子とのふれあいが多かったかの反省をするとともに、必ず、ことばを交換しあって安心感を持たせ、やる気をおこさせ、わかる指導をしたい。

##### (1) 登校を待つ

できるだけ早く出勤して、児童の登校を待つやう心がける。登校した児童は、家での遊びのこと、家族のことを報告する。それを聞きつつ、きょうの児童の心身の状態が判断できる。

##### (2) 休み時間・業間体育時の共遊

児童とのスキンシップのよい機会、心のふれあいによって安心感を持たせ、意欲をおこさせる。

##### (3) 給食時

グループごとの訪問によって、食事をしながら話し合いの機会を持ち、なごやかなふん囲気づくりにつとめ、安心感を持たせる。

##### (4) 清掃時

師弟同行、清掃にも不なれのため、指導しながら清掃することから、やる気をおこさせる。

##### (5) 放課後

時間内に処理、理解できなかった児童については、できるだけその日のことはその日のうちに処理させ指導していくことにつとめる。

きょうの学習は理解できたから、あすは、もっと頑張ろうという気持ちをおこさせるようにする。

#### (6) 日記

朝の自習時に、きのうのことを書き、グループごとに提出させる。必ず教師のこぼれ書きを入れ、文の話し合いをする。

### 5 自由勉強の日（水曜日）をきめる

教師や親から与えられた課題にだけ取り組むのではなく、自分から課題を見つけ取り組もうとする意欲を育てたいと考え、1年の3学期から実施してきた。最初は、何の勉強をすればよいのか迷い勝ちであったが、最近はその日を楽しみに、計画的に学習できるようになってきた。学習の記録は、交代に背面黒板に展示し、個人個人でとじて教室内に保管、いつでも友だちのを参考に见られるようにして、互いに励まし合って努力させる。

- ・児童………自覚と喜びの表現
- ・教師………学習の理解と発展の評価

### 6 教室環境整備のくふうをする

物的条件としての教室環境は、教師の姿勢そのものであると考え、計画的にいきいきとした構成につとめ、児童ひとりひとりの参加と活動を刺激するよう心がけたい。

#### (1) 指導のための教室経営

経営のひとつひとつに、明確な意図と見とおしをもって、指導に役だてる構成とする。

#### (2) 持続性と創造性にとむ教室経営

入念な計画によって三日坊主にならないようにつとめ、児童が自発的に取り組める内容、いきいきと常に児童にはたらきかける内容のくふうをする。

#### (3) 掲示物で児童と交流できる教室経営

掲示物の指導、学習指導との関連づけによって、児童に刺激を与え、激励できるように考慮する。展示の角度や観点をはっきりさせてやる。図画の場合、ただ貼るのでなく、構図がよいもの、努力したあとの見えるものなど、その時の画題や指導のねらいに即して、絵の見方を、問いかけ式に書いて貼付する。

### 7 今後の課題

ひとりひとりにわからせるために、個人指導を十分にすることには努力したが、40人の在籍では時間にも限りがあり、学習の効果もあげられないこともでてくるので、グループ学習により児童相互の力をまとめて、自分たちの力で学んでいく態度や方法を経験させる学習形態を考えて実施してきた。

2年生の段階では、人数が多すぎてもむずかしいと思い、4人をひとつの単位と考えてみた。4人の集りは、ソシオメトリック、観察記録をもとに男女混合の異質グループでつくってみた。

2年生なりにひとりひとりが全力を出して学習に取り組むことがわかってきたようだし、困っている友だちを援助して教えてあげることもできるようになってきたが、まだ2年生では、自己中心的な意識の強い子も残っている現状で、時には、ひとりの子に過重の負担を与えたり、責任を厳しく追求されたりすることもでてくるため、協力できず、いさかいの集団となることもある。

今後は、3年生への進級の過程も考えて、お互いの仲間意識や連帯感を育てていき、集団の中のひとりであることを自覚した活動をもっていくことを課題としたい。

～～学級経営実践記録より ～～

## 評

学習意欲を育てるためには、教科学習そのものに対して興味・関心を持たせたり、成功感や満足感を味わわせるための指導方法の工夫が大切であることは言うまでもないが、その基盤となる学級のふん囲気づくりも極めて重要なことであると思います。

本研究では、教師と児童および児童相互の間に尊敬と信頼の念がゆきわたり、ともに理解し協力し合うという人間関係のもとで、ひとりひとりの児童に学習意欲を起こさせるための具体的な手だてが児童の生活に密着して研究されている点、大いに参考になることと思います。

また、教師が、児童とともに歩むことに徹し、児童の変容を期待するばかりでなく、教師自らの変容に絶えず努力してきた姿勢に対しても敬意を表するとともに、今後もさらに実践研究をされ、その成果の発表を期待しております。